



くすり博物館だより

〒501-61 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689-2101

第23号

特別展 結核 —なぜ、今結核か—

1990.11.2 ~ 1991.2.28



今回の特別展『結核』では、過去と現状を知り、結核についての問題をもう一度見直したいと考えました。

明治以降、結核はわが国の死因の上位を占め、死亡率も高く亡国病といわれていました。戦後、環境、栄養の改善をはじめ、優れた抗結核薬の登場、医療制度の充実などにより急激に減少しました。

しかし近年日本では、若年者の結核の集団発生と高齢者の結核患者数の減り方の鈍化が問題となっています。それは結核が過去の病気であるという認識が原因です。結核はまだ生きています。あなたとあなたの周りの方が、結核にならないよう今回の特別展をお役立ていただければ幸いです。

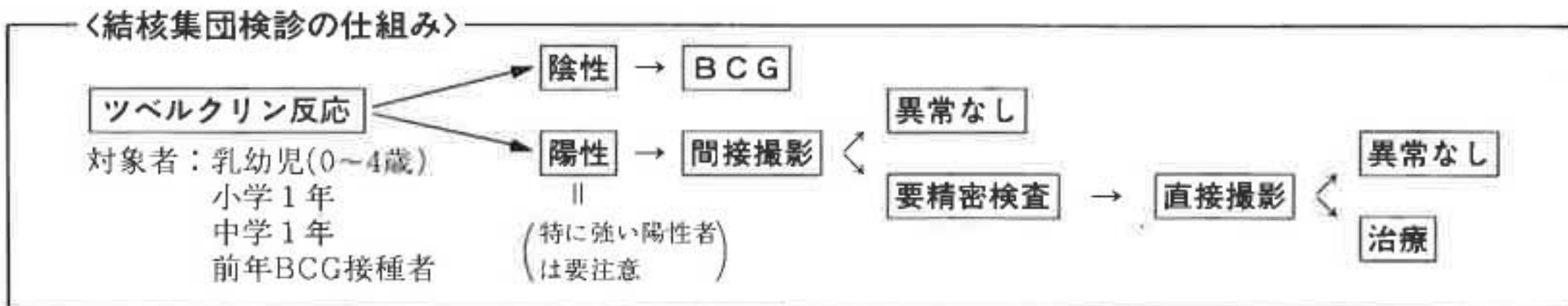
〈あなたは検診を受けていますか〉

年1回の定期検診で結核（肺ガンを含めて）を早期に発見できますから、ぜひ受けましょう。こんな症状が2週間続いたら結核を疑い、医師に相談しましょう。

（咳、痰が続く だるい）
（微熱が出る やせる）

結核に気付くのが遅すぎるといわれています。
結核の正しい知識をもちましょう。

結核の場合ははじめは自覚症状がほとんどないため、咳や痰がでてはじめて気がつく事が多いようです。しかしその時にはすでにそうとう進行しているのです。早期発見するために定期検診（胸部X線撮影）が必要なのはそのためです。そして、お子さまにはツベルクリン反応とBCG接種をうけさせることが望ましいでしょう。



ツベルクリン反応(ツ反応)とは

結核に感染しているか感染していないかを検査する方法です。

〈変化なし〉…陰性、感染していない。
〈赤く腫れる〉…陽性、感染している。

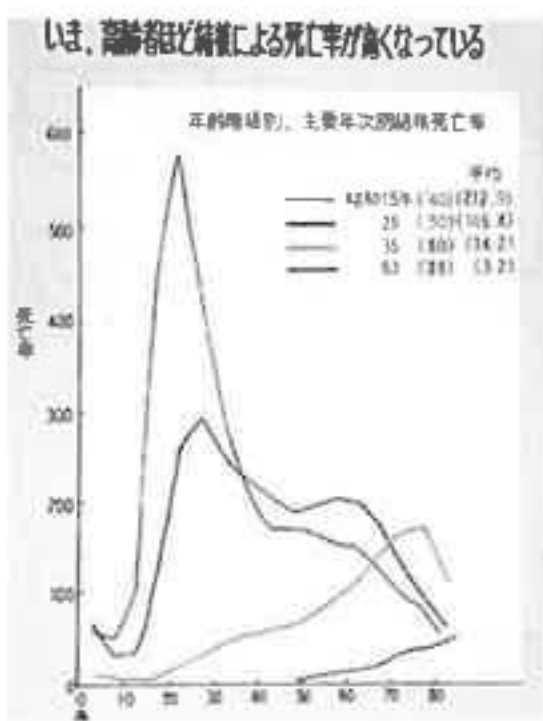
したがって検査の結果、陰性の方はBCGを接種します。



BCGの接種とは

結核に対する免疫をつくるものです。接種後はBCGのためにツ反応が陽性となりますが、半年~1年後には陰性に戻ります。したがって陰性となれば再び接種し、自然陽転になるまで続けます。BCG接種は結核の発病率を低下させ、発病しても病状は軽いといわれています。





▶結核は遺伝ではなく、伝染病

1882(明治15)年、コッホは結核病巣から結核菌を培養、分離し、その菌を動物に吸入させ、発病させることに成功しました。こうして、結核が結核菌による伝染病であることを証明しました。

▼琉球(沖縄県)結核予防シール

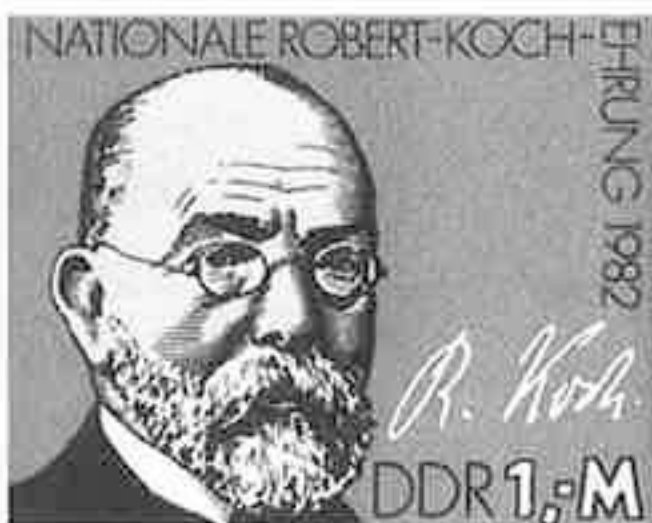
複十字シール運動は結核・肺癌をなくすための、世界共通の予防のための募金活動です。昭和28年から昭和47年(祖国復帰)まで、琉球では独自のデザインで予防シールが発行されました。



◀現在の結核問題

①高齢者ほど結核による死亡率が高くなっています。

昭和20年代までは結核死亡者の多くは、20歳前後の若者でした。しかし今は中高年(40歳以上)の人に多くなっています。それは若い時に結核に感染した人が、中高年になって体の抵抗力が低下し、働きすぎなど



▼抗結核薬ストレプトマイシンの登場

1944年(昭和19)アメリカのワックスマンによって結核菌に有効な抗生物質ストレプトマイシンが発見されました。その後、次々と新しい薬が誕生し、結核の治療に貢献しました。

により、息をひそめていた結核菌が暴れ出して発病するという訳です。

②集団感染が多発しています。

集団感染が目立つのは、結核に対しての知識不足が原因といえます。特に、未感染の若者の中では、結核感染者が気付かずに菌をばらまいたりすることが多く、集団感染をおこしやすいのです。

▶結核の治療法の変遷

昔から結核の特効薬と称するものは数限りなくありました。しかしストレプトマイシンが登場するまでは、結核の治療に使われた薬は、自覚症状を除く対症療法剤と患者の体力を増して、自然回復を助長する変質強壮剤のみでした。

また外科療法として、人工気胸、胸部形成術、肺切除といった療法も行われていました。

▶集団検診に威力発揮!

1895年(明治28)レントゲン(ドイツ)の発見したX線は胸部撮影に利用され、結核の診断方法が驚異的に進歩しました。

日本では、1935年(昭和10)東北大学の古賀良彦によって間接撮影法が考案され、安価で効率のよい集団検診が可能になりました。特に戦後は、間接撮影のためのX線装置、X線検診車が開発され、結核の集団検診、早期発見を容易にしました。



◀結核の予防と知識

昭和15年頃の結核予防に対する知識や人々の生活環境を知ることができます。

▶映画「ああ野麦峠」ポスター

大正、昭和初期に生糸工場で働く女工たちを中心に結核が大流行しました。野麦峠を越えて出稼ぎに来た一人の女工が悲惨な労働環境によって結核で死んでいく物語は、大きな反響を呼びました。



▼都道府県結核予防ポスター



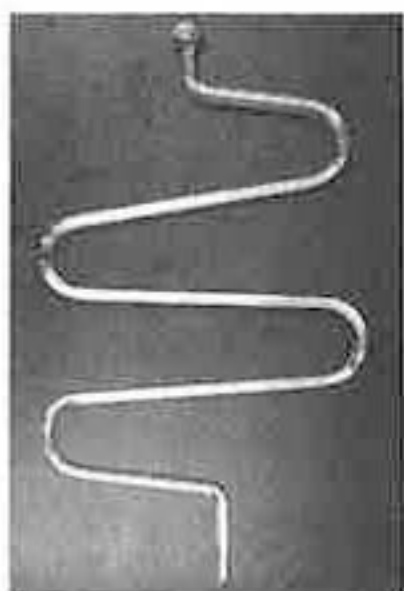
今回の特別展では、医療法人協仁会小松病院理事長 小松良夫先生、財団法人結核予防会結核研究所長 青木正和先生、財団法人結核予防会、岐阜県大野郡高根村、宮古とく子様、新日本映画(株)、劇団民芸、東京芸

術座、結核予防会北海道支部、同福井県支部、同愛知県支部、同岐阜県支部、同三重県支部、同沖縄県支部、岐阜県多治見保健所(順不同)のご協力をいただきました。

特別展 身近な医療器具
— 体温計 —

今秋くすり博物館では、『結核』展のほかに、身近でありながら意外と知られていない体温計の歴史、正しい使い方を紹介する特別展を開催しています。

体温計の歴史は古く、17世紀イタリアまでさかのぼります。もちろん現在使われている体温計とは全く異なります。丸い部分を口に含んでもう一方の端を水に漬け、口



複製した体温計

を離して管の中を液がどれだけ上昇したかで体温を測ったようです。くすり博物館で複製した体温計(=写真)での実験では、測り方を間違えたため正確には測れませんでした。

しかし18世紀、ドイツのファーレンハイトの華氏温度計やフランスのレオミュールの列氏温度計、スウェーデンのセルシウスの摂氏温度計の発明により、だんだんと正確に測れる体温計が製造されるようになりました。

19世紀にはいるとやっと特定の病気に特有の体温変化があることにドイツのウンデルリッヒが注目し、イギリスなどでは病院で日常的に体温計が利用されるようになりました。

その後1883(明治16)年に、日本へ

伝わり、山崎豊太郎・柏木幸助らにより、国内での製造が開始され、1912(大正10)年には、北里柴三郎も赤線体温計(株)の設立に力を注ぎ、国産の正確な体温計が作られるようになりました。そして今では電子体温計も登場しています。

なお、この特別展は次の各社のご協力を得て開催しています。

森下仁丹(株)・帝国臓器製薬(株)・テルモ(株)・(株)矢沢科学(順不同)
会期; 1990.11.2~1991.1.31



体温計の正しい使い方もパネルで紹介

お屠蘇はいかがですか？

くすり博物館では、毎年12月になると屠蘇散（とそさん）を来館者の皆様にお配りしています。

屠蘇散は、9世紀はじめに中国から伝えられた薬で、古代中国の名医華陀（かだ）が処方したといわれています。

この屠蘇散は、山椒（サンショウの果皮）、肉桂（ニッケイの樹皮）、防風（ポウフウの根）、桔梗（キキョウの根）、白朮（オケラの根）の5種類の生薬を調合したものです。

これを一晩漬けた酒を元旦に飲むと一年の邪気を払い、根気を蘇生せしめ、寿命を延ばすと信じられてきました。そのため、年の始めにお屠

蘇を飲んで、家族の一同の健康を祈願するようになったのです。

現代の日本では、元旦にお酒だけでお祝いをするところも多いようですが、一度本格的なお屠蘇を試してみたいはいかがでしょうか。

12月1日よりお配りいたしていますが、なくなり次第終了いたしますので、ご希望のかたはできるだけお早めにご来館ください。



屠蘇散とお屠蘇を飲む道具類

～資料寄贈・寄託者 ご芳名～

岡部昭彦 片桐平智 加藤栄治
神谷智恵子 高德(中国)幸保文治
藤井邦夫(株協進) コロニー製薬
(韓国) 阪本秀策 高橋順也
田邊源三郎 竹本節子 戸田薬局
中西良次 長門谷洋治 帆足道代
横田稔 (敬称略)

ありがとうございました。

ご寄贈・ご寄託いただいた資料のほかにもいくつか資料を購入いたしました。これらの資料は折をみて特別展などでご紹介していく予定です。

とぴっくす

▶楽しかったね！夏の催事

8月4・5日に行われた夏休みこども教室は応募者が多く、18日にももう一度開催されました。この3日間で46名もの小・中学生が参加。大きわぎでカレー作り・草木遊び・草木染めに取り組んでいました。

▶くすり博物館は人気物？

日本で唯一の総合的な薬の博物館であるせいか、今年も資料の貸し出しや取材があいついでいます。

秋田県から福岡県まで、そして長崎県で開催された『旅博覧会』にも資料が貸し出され、大変好評でした。

また、TV『謎学の旅』でも、さじと服薬の2回にわたって取材を受け、博物館でも撮影が行われました。

▶レファレンス・サービスは大盛況

くすり博物館の知られざる仕事に、レファレンス・サービスがあります。これは、くすりや医学の歴史、生薬や薬用植物についての疑問に博物館がお答えするサービスのことです。

もちろんご来館いただき、図書や資料を利用してご自分で調べていただくのが一番です。しかし何をどのように調べたらよいかわからないとき、他で調べてもわからないときはご相談ください。できるだけお役に立ちたいと存じています。

因みに平成2年4～10月の問い合わせは、74件。昨年度1年間の件数をすでに越えています。館内でのご質問にお答えした件数を加えれば、おそらく100件は越えるでしょう。

▶植物画で年賀状



受講生の作品

今年度からは、恒例の植物画講座は月に一度、月末の土・日曜日に開催されています。特に11・12月は年末も近いということで、描いた植物画を年賀状に利用する方法もご紹介。11月はお正月にふさわしく、赤い実の美しいヤブコウジを描きました。

館長 藤田孟 学芸員 稲垣裕美(編集担当) 学芸員・司書 野尻佳与子 伊藤恭子 庶務 川瀬麻起子 説明員 高橋千寿
薬用植物園園長 逸見誠三郎 顧問 青木允夫
くすり博物館 9:00～16:00開館(月曜・12月29日～1月8日 休館)